

日本ロシア文学会会報 第34号 2008年4月

1. 2007年度(第57回)定例総会・研究発表会報告
2. シンポジウム報告
3. 10月・12月理事会関連事項
4. 会員異動
5. 倫理WG第一次答申
6. 会費減免についての申し合わせ
7. 会誌規定、執筆要項の改正

1. 2007年度(第57回) 定例総会・研究発表会報告

第57回定例総会・研究発表会は、さる2007年10月27日(土)、28日(日)の両日、千葉大学西千葉キャンパスで開催されました。また、10月26日(金)にはプレシンポジウムが開催されました(後記)。

10月27日(土)の午後に開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- (1) 第4回日本ロシア文学会学会賞表彰
井桁会長より平松潤奈氏と本田晃子氏に表彰状ならびに賞金が授与された。
- (2) 会務報告
事務局より会員異動について報告があり、ついで新入会員の紹介が行われた。
- (3) 2008年度総会・研究発表会の開催校について
中京大学で開催されることが報告・承認された。
- (4) 2006年度決算・2007年度予算について
事務局から2006年度決算案・2007年度予算案について説明があり、承認された。
- (5) 次期理事・各種委員会委員の交替について
次期理事・各種委員が提案され、承認された。
関東支部より佐藤純一氏が顧問として推薦され承認された。
- (6) 倫理規定策定ワーキンググループより「日本ロシア文学会倫理規定の策定について(第一次報告:検討の方向性)」が報告され、了承された。(内容は5.)

2. シンポジウム報告

2007年10月26日(金)、定例総会・研究発表会開催の前日夕に、千葉大学けやき会館ホールにおいて、プレシンポジウム「生きのびるためのアート——ロシア美術の最前線」が開催されました。内容は以下の通りです:

飯島洋一氏(多摩美術大学)
「破壊と現代」

初山昌夫氏(神奈川県立近代美術館)

「イリヤ・カバコフ『世界図鑑』展をめぐって」

鈴木正美氏(新潟大学)

「言葉と行為——二人のパフォーマーをめぐって」

コメンテーター: 貝澤哉(早稲田大学)、福間加容(千葉大学)

司会: 鴻野わか菜(千葉大学)

3. 10月・12月理事会関連事項

10月の理事会は、10月27日(土)に千葉大学西千葉キャンパスで、12月の理事会は12月8日(土)に東京外国語大学総合文化研究所で開催されました。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

10月理事会

■会員異動(入会4名、退会1名、逝去1名)——「会員異動」の項参照。

■剰余金について

WGからの答申に理事会での議論を踏まえ会長が5行追加したものを示し、剰余金は書類上2007年度予算から明記されることが了承され、その方針に沿って決算報告書に訂正が加わることも了承された。

■2006年度決算・2007年度予算について

上記議題で出された答申を考慮した訂正が行われた決算が報告され了承された。

予算については原案をさらに1箇所修正のうえ、総会に諮ることが決定された。

■次期理事、各種委員会委員について

次期理事、各種委員候補一覧に誤字などの訂正を行った後、確認・了承された。

副会長についても安藤厚氏が留任することが確認・了承された。

関東支部から佐藤純一氏が顧問として推薦され、承認された。

■会誌規定、会誌原稿執筆要項の改正について

会誌規定、会誌原稿執筆要項の改正案について資料

に沿って変更点の説明がなされ了承された。(新規定、新執筆要項は6.)

■会費減免に関する申し合わせについて

同申し合わせを総会に提案することが確認された。
(申し合わせの内容は7.)

12月理事会

■会員異動(入会2名、退会2名、休会1名)——「会員異動」の項参照。

■2007年度総会・研究発表会収支報告

10月の総会・研究発表会、プレシンポジウムの収支について、事務局長より(開催校からの報告を受けて)説明された。

■2008年度総会・研究発表会の準備状況について

中京大学で開催予定の総会・研究発表会(2008年10月11日・12日)の準備状況が報告された。また、プレシンポジウムは企画しないが、そのような企画がある場合は受け付けることも可能であるとの報告がなされた。

4. 会員異動

[2007年10月理事会 12月理事会]

入会: [氏名(所属/支部) 専攻分野(推薦者)]

上西恵子(/関東) プーシキンを中心とする民衆文化(高野雅之、井桁貞義)

酒井英子(/関西) ロシア文学(木下晴世、鴻野わか菜)

サディグル・エルドス・ラキムジャン(北海道大学〔院生〕/北海道) 言語文学(望月恒子、栗生澤猛夫)

鈴木理奈(モスクワ国立大学院〔院生〕/北海道) ロシア言語学(シンタクシス)(岩原宏子、鈴木明美)

徳弘有香(大阪市立大学〔院生〕/関西) プーシキン(近藤昌夫、浅岡宣彦)

山口恭子(ジャパン・エア・トラベル・マーケティング/関東) 国際コミュニケーション(鈴木晶、佐藤裕子)

休会: **横井幸子**(関西)

退会: **植草麻衣子**(関東)、**植村進**(関西)、**真木三三子**(東北)

逝去: **新田實**

5. 倫理規定WG 第一次答申

日本ロシア文学会倫理規定の策定について

(第1次報告: 検討の方向性)

近年、大学教員・研究者等の専門職のモラルについて社会的な関心が高まり、学会にも倫理的な問題(盗作・盗用・無断引用等)やハラスメントの問題につい

ていくつか相談が寄せられるようになってきたので、昨年12月、理事会の下に倫理規定策定WGが設けられ、本学会においても倫理規定あるいは綱領を策定し、倫理委員会等を設ける可能性について検討してきた。いまだ、まとまった提案を行う段階には至っていないが、これまでの検討を踏まえて、今後の検討の方向性を記す。

- 1) 他の学会の動向(日本比較文学会倫理綱領(2007.6.16 制定)、英米文化学会倫理規定(2005.12.27 発効)等)を参考に検討した結果、まず「他者の人権尊重」「他の研究者の研究・調査の成果の尊重」等を謳った「宣言」的文書(綱領)を策定し、それと並行して、当学会内での研究発表(研究発表会、会誌掲載論文、学会賞)における発表と審査(査読)のシステムを見直し、(倫理)規定を整備することとする。
- 2) これらの倫理綱領・規定を実質化するために倫理委員会等を設置することについては、まず「相談機能」をもった機関の設置を検討するのがよいと思われる。
- 3) 罰則(懲罰)規定の制定等については、(倫理)規定の整備の検討と並行して、実効的・現実的な方策を検討する必要がある。

2007年10月27日

倫理規定策定WG

安藤 厚(座長)

野中 進

堀江新二

イリーナ・メーリニコワ

6. 会費減免に関する申し合わせ

会費減免に関する申し合わせ

JCREES(日本ロシア・東欧研究連絡協議会)加盟の複数の学会に加入している大学院生会員に対する会費減免に関して、以下の通り定める。

1. 日本ロシア文学会に加え、1) JSSEES、2) ロシア・東欧学会、3) ロシア史研究会の3団体のうちのいずれかに加入している大学院生(研究生等も含め、何らかの形で授業料、研究料等を納付している者)には、普通会費を毎年1,000円減免する。
2. 3つ以上の団体に加入している場合も、減免の額は同じ(1,000円)とする。
3. 該当の大学院生は、会費納入の際、振替用紙の通信欄に、1) 日本ロシア文学会以外に加入している上

記団体の名称（いずれか一つ）、2)所属の大学・研究機関・身分（修士/博士課程学生、研究生等）を明記の上、当該年度分の請求額より 1,000 円少ない額を送金する。

4. この措置は 2008 年度の会費から適用する。2007 年度以前の会費の滞納がある場合、その分の減免は行わない。

2007 年 10 月総会決定

6. 会誌規定、執筆要項の改正

●日本ロシア文学会会誌規定(改正後)

5. 本誌の掲載対象は次のものとする。

(イ)研究論文 (ロ)学会研究報告要旨(別冊) (ハ)書評 (ニ)学会動静ほか

1968 年 10 月制定 2007 年 10 月最終修正

●会誌原稿執筆要項(改正後)

1. 原稿の執筆に際しては、本要項および、別に定める引用注の表記等の細目についての「ガイドライン」に従うものとする。ただし、編集委員会が別に指示する場合はそれによる。
2. 原稿の使用言語は、日本語、ロシア語、英語を原則とする。その他の言語については、編集委員会の判断による。ただし、引用・用例の言語は原則として制限しない。
3. 日本語論文には、ネイティブ・スピーカーの校閲を経た、ロシア語あるいは英語のレジюмеを付す。
4. 分量は、論文は注・レジюме等も含めて 16,000 字(会誌 8 ページ)以内、書評は 6,000 字(会誌 3 ページ)以内とする。日本語以外の言語による原稿、図表・写真を含む原稿、詩の引用等空白の多い原稿、等の分量については、編集委員会が別に指示する。
5. 投稿申込みは、毎年刊行前年の 11 月末日までに、A4 用紙 1 枚限り(1,000 字程度)の要旨を添えて事務局宛に提出する。審査用原稿の提出期限は毎年 1 月末日とする。審査により掲載が決定した論文等の完成原稿および編集部が依頼した原稿の提出期限は、編集委員会が別に指示する。
6. 研究論文の執筆者には抜刷り若干部を贈る。
7. 学会研究報告要旨は、研究発表会の前に会誌別冊として刊行する。研究発表申込み(毎年 7 月頃)に添えられる報告要旨を原稿とし、発表が認められたあと手直しの機会を設けて、報告要旨集を作成する。分量は 1,000 字(会誌半ページ)以内とする。日本語要

旨には英語あるいはロシア語による発表題目・発表者氏名を付記する。

1999 年 10 月制定 2007 年 10 月最終修正

*改正前の日本ロシア文学会会誌規定、
会誌原稿執筆要項は、昨年の会誌表紙裏をご参照ください。

*研究発表申込み(毎年 7 月はじめ頃)の際、1,000 字(会誌半ページ)以内の学会報告要旨(日本語要旨には英語あるいはロシア語による発表題目・発表者氏名を付記)を添えていただきます。
ご注意ください。

役員・委員一覧 (2007年12月現在、★は委員長)

	北海道	東北	関東	中部	関西	西日本
会長	井桁貞義					
副会長	安藤 厚					
顧問	佐藤純一 米川哲夫					
監事	諫早勇一 西中村浩					
理事	鈴木淳一 望月哲男	吉川宏人	伊東一郎 浦 雅春 貝澤 哉 金沢美知子 亀山郁夫 金田一真澄 佐々木精治 中島由美 沼野充義 野中 進 原 求作 水野忠夫 安岡治子 渡辺雅司	郡伸哉 安村仁志	浅岡宣彦 楯岡求美 林田理恵 松本賢一	西野常夫
会誌編集委員	宇佐見森吉	長谷川章	草野慶子 野中進 長谷見一雄★ 匹田剛 柳町裕子	中澤敦夫	林田理恵 ヨコタ村上孝 之	佐藤正則
学会賞選考委員 (委員長は会長が兼任)	望月哲男	黒岩幸子	大石雅彦 貝澤 哉 金田一真澄 沼野充義	杉本一直	北上光志 松本賢一	芳之内雄二
支部長	望月哲男	吉川宏人	沼野充義	安村仁志	浅岡宣彦	西野常夫
支部事務局	山田隆	柳田賢二	白山利信	清水伸子	岡本崇男	西野常夫
ロシア語教育委員	米重文樹★ 太田丈太郎 金田一真澄 小林潔 佐藤規祥 鈴木淳一 堤正典 林田理恵 柳田賢二					
国際交流委員	木村崇★ 岩本和久 貝澤哉 グレチコ・ワリール 楯岡求美 中村唯史 沼野充義 望月哲男					
広報委員	草野慶子★ 大西郁夫 柿沼伸昭 久野康彦(HP 担当) 鈴木正美 安村仁志					
事務局長	匹田剛					

日本ロシア文学会会報 第34号 (2008年4月1日発行)

発行人 井桁貞義 編集人 日本ロシア文学会事務局

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学外国語学部匹田研究室内 hikita@tufs.ac.jp